

2026年4月6日

都道府県連盟理事長各位

一般社団法人日本小学生バレーボール連盟
代表理事 工藤 憲
専務理事 大内 賢司
競技推進本部長 菅野 裕

一般社団法人日本小学生バレーボール連盟
2026年度 競技取り扱いについて

日頃より、一般社団法人日本小学生バレーボール連盟の活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、2026年度の競技取り扱いについて、以下の通りお伝えいたします。

つきましては、各都道府県連盟におかれましては、役員及びチーム関係者への周知のほどよろしくお願いいたします。

1. 選手の健康と安全のためのタイムアウトについて

2026年度より、小学生ルールよりテクニカルタイムアウト（TTO）が削除となり、競技としての取り扱いへ移行されました。

名称をセーフティータイムアウト（STO）とし、気候や季節、施設の環境等を考慮しながら、大会毎に大会実行委員会にて設定するものとします。

※セーフティータイムアウトは選手の健康と安全のために適用されるものであることを再確認し、選手の給水や健康観察を最優先させること。

- ・選手はベンチ横からウォームアップエリアの間の位置に30秒間とどまること。
- ・セーフティータイムアウト中は、ウォームアップはできない。
- ・ベンチスタッフの声かけは、健康観察のためのものである。

○スセイ Vitality カップ JVA 第46回全日本バレーボール小学生大会全国大会においては、各セット1回のセーフティータイムアウトを適用します。

デュースが続く場合の取り扱い

第1、第2セットでは、両チームが31点に達したときに適用し、その後は10点ずつ積み重ねた段階で適用する。3セット目は両チームが21点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。

○都道府県大会等において、会場に空調設備がなく、選手の安全が確保できないと大会実行委員が判断した場合には以下のように適用してもよい。

セーフティータイムアウトを2回適用する場合の取り扱い

第1、第2セットでは、リードしているチームが7点と14点に達した時、第3セットはリードしているチームが8点に達した時、チェンジコート後に適用する。デュースが続く場合、1～2セットは両チームが25点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。また、3セット目は両チームが21点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。

2. ユニフォームについて

①ユニフォーム規程

JVA ユニフォーム規程 2026 一部改定について

※以下の改定内容については、小学生においても同様の取り扱いとする。

- ・ゲームシャツ

長袖、半袖、ノースリーブが**混在してもよい→してはならない**

- ・チームネーム 胸部→「前部」に変更 **番号の下でも良いということ**
- ・アンダーウェアは着用しても良い。(チームメンバー全員が着用する必要はない。)
アンダーウェアはユニフォームの袖や裾、首等からはみ出しても良い。 アンダーウェアの色はユニフォームのメインカラーと同色が望ましいが、サブカラー以外の色でも認められる。
- ・ベンチスタッフの服装
タンクトップのような形状のシャツ類、短パン、ハーフパンツ は許可されない。
襟の有無は問わない(Tシャツも可)

②ウェア等公認制度について

2026年版が HP「競技関係情報・各種様式」に掲載されている。

③混合のユニフォームについて

「男女の違いが、相手チーム、観客、レフェリーから見て明瞭に区別できるように、カラーやデザイン面に注意する必要がある。」とします。

基本的に男女で違うユニフォームを着用することが多いですが、同じデザインになる場合には、「JVA ユニフォーム規程詳細」にあるリベロプレーヤのユニフォーム①～③を参照のこと。

※識別バンドやソックスの色での区別だけでは不可となります。

○スミセイ Vitality カップ JVA 第46回全日本バレーボール小学生大会全国大会については

上記の内容を含め、ユニフォーム規程・JVA ウェア等公認制度及び小学生連盟におけるユニフォーム取り扱いに則って大会運営をしますので、**都道府県大会から競技委員長によりユニフォーム確認をしてから、チームを全国大会に送り出してあげてください。**

ただし、昨年度からベンチ入り選手が14名になり、「13・14番については、ユニフォームが揃わない場合にはTシャツにゼッケン等で番号を入れる、違うユニフォームにビブスを着て番号を変えるなどでベンチ入りを認める。」としていました。これについては**今年度まで同様とします。**

同大会の都道府県予選大会においても、可能な限り全国大会同様の取り扱いに準ずるのが望ましいですが、「参加を認めない」「着替えを強要する」などの対応ではなく、「今後のために指導をしていく」という観点からの対応をお願いします。

なお、JVA 主催以外の大会においては、それぞれの大会の主催者にて取り扱いを決めていただくようになります。

3. ベンチへの持ち込み物について

ペットボトル→体育館の利用規定に準じて大会ごとに決めてください。

4. 試合中の応援団グッズの使用及び応援マナーへの対応について（再掲）

平成19年に、監督から選手への指示の声が聞こえなかったり、選手が集中できなかったりするという理由から、太鼓・ラッパなどの大音量を発生する「鳴り物」は複数コートで試合をしているときには使用しないとの通知がされ、現在も適用されています。メガホンやバルーンは鳴り物にはあてはまらず、使用については規制してはおりません。

応援によって選手を励まし、大会を盛り上げることは素晴らしいことであるが、反面応援が選手にとってマイナスとなるケースも見られるので、応援のマナーとして特に以下の点について指導していくこと。

- ・ 審判のホイッスルが聞こえなくなるようなプレー中の応援はしないこと。
- ・ 相手チーム自チームに限らず、選手が萎縮してしまうような大きい声・音はださないこと。